1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 「人間尊重」の精神を基盤とし、豊かな心の陶冶，自主性と創造性の伸長，体力・気力の充実を図り，心身ともに健康でたくましく生きる創造的実践力をもつ子供の育成を図る。
- (2) 具体目標（目指す子供像）
○思いやりのある心豊かな子	○進んで学び創意工夫する子
○元気で明るくがんばる子	○きまりを守り責任を果たす子
- 【合言葉】 元気なあいさつ（やる気） だれにも親切（思いやり） きれいな陽東（根気）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

〔学校経営のテーマ〕 「楽しく，心豊かで，魅力ある学校づくり」

学校は，子供たちが安心して学び合い，友達や教職員との関わりの中で伸びていける場である。また，教職員にとっては，その専門性を発揮しながら協働し，同僚性を培っていこうとする場であるという観点から本テーマを設定した。具体的には，どの子にも，どの職員にも居場所があり，一人一人のよさや可能性を互いの関わりの中で伸ばしていこうとする学校であり，保護者・地域との関わりを大切にして，信頼と協力で結ばれた学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 組織的に機能する学校
- ・学校が組織的に機能するよう，「学校マネジメントシステム」や「教職員評価制度」等を活用し，様々な立場からの経営参画意識を高めるとともに，教職員それぞれの個性や能力を発揮した職務が遂行されるようにすることで学校力の一層の向上を図る。
 - ・「子供の健康・安全の充実はすべての教育活動に優先する。」ということを第一に考え，自他の生命を尊重し，感染症への適切な対応や安全な学校環境を整備に努める。
 - ・特別支援教育の考え方や方法を生かし，個に応じた支援ができるように努める。
- (2) 知・徳・体の調和のとれた「成長し続けるための基盤を培う」教育の実践
- ・基礎・基本を確実に習得させ，それらを活用する力を育成するとともに，目標をもち，自ら学ぶ意欲を育む。
 - ・全ての学習を支える情報活用能力を身に付けるためのツールとして，1人1台端末を効果的に活用するとともに，デジタルシテイズンシップ教育を推進する。
 - ・心の教育の充実により，自信や自己有用感，たくましさ，規範意識，思いやりなど，豊かな心を育む。
 - ・生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。
- 地域学校園の教育ビジョンを踏まえ，小中一貫教育の推進に努める。
- (3) 教職員の資質・能力の向上
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し，指導力・授業力の向上を図る。
 - ・一人一人の学級経営力を高めるとともに，学年内の連携を図った指導を工夫する。
 - ・児童が「個別最適な学び」を進められるよう，学習内容の確実な定着を図る観点や，その理解を深め広げる学習を充実させる観点からカリキュラム・マネジメントの充実・強化を進める。
- (4) ○家庭・地域・社会と連携した社会に開かれた教育課程の実現
- ・学校マネジメントシステムの公開や教育活動の広報を行うとともに，地域協議会や学校ボランティアとの連携を図る双方向型の活動の一層の充実を図る。
 - ・保護者，地域，社会とのかかわりを重視し，体験活動の充実等を図る。
- (5) 「働きがい」と「働きやすさ」を両立する働き方の推進
- ・校務・事務の効率化と適正化のため，個々の業務の改善やICTの活用を推進する。
 - ・高い同僚性のもと，児童指導や学習指導の工夫改善が職員間で共有できるように努める。
 - ・教職員を目指すボランティアなどを積極的に受け入れ，魅力を体感してもらう。

4 教育課程編成の方針

- 本校においては，改訂された学習指導要領及び上述した学校経営目標，理念，具体策を具現化するために，下記のような方針をもとに教育課程を編成し実施する。
- (1) 教科等横断的な視点を踏まえ，各教科等の関連を年間指導計画に位置付けるなどしながら，教育内容や時間の適切な配分に努める。
- (2) 実施に当たっては随時その状況を評価し，児童の実態や社会的な状況等に合わせて改善を図ることを繰り返すものとする。
- (3) 校内外の人的，物的体制を最大限活用し，児童への教育効果を高める内容とする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>(1) 学校運営 ・「楽しく、心豊かで、魅力ある学校づくり」</p> <p>(2) 学習指導 ・「自ら学ぶ意欲を育み、基礎・基本と活用する力を高める学習指導の充実」</p> <p>(3) 児童生徒指導 ○「豊かな心を持ち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童・生徒の育成」</p> <p>(4) 健康（体力・保健・食育・安全） ・「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成」</p>

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 豊かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 基本的な学習態度・技能を身に付けさせるために、教師間での共通理解を図るとともに、<u>児童に「学習の約束」を年度初めや学期初めに教回周知し指導に当たる。</u></p> <p>② 児童の考えを引き出し深める発問や板書を工夫し、自分の考えをもって学び合える学習活動を重視する。</p> <p>③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や職員研修を実施し、指導力の向上に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.9%で、目標値をやや下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童の思考を深めるような学習活動を工夫し、学び合いを重視した授業を展開していく。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 登校班での登校や縦割り班での休み時間の共遊、たんぼぼ学級との交流等を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育てる。</p> <p>② 体験と関連を図った道徳科の授業を通して、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.7%、教職員の肯定的回答は 96.8%で、それぞれ目標値を上回った。 ・昨年度に比べて異学年との交流を図る機会を多くとることができ、思いやりをもって生活できた。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も縦割班活動における共遊・清掃活動の交流を継続し、思いやる心を深めていきたい。</p>
	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の達成状況は、90.1%で目標値を上回った。 ・昨年よりも、目標をもって取り組む活動の機会を多くもてた。</p> <p>【次年度の方針】 ・行事だけではなく、各教科の授業においても、目標を明確にし、児童が目標を意識して、毎時間取り組めるようにする。 ・目標達成までの過程を認め、励ます指導の充実を図る。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に関心を持ち、自ら健康に気を付けて生活できるよう、体育、学級活動等の教科を中心とし、児童会活動や学校行事と関連させながら、運動・保健指導、及び日常生活指導を行う。</p> <p>② 学校給食と教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③ 自らの命を守る行動力を育成するため、日常における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.9%、教職員の肯定的回答は 96.8%で目標値を上回った。 ・日常生活を送る上での制限が緩和されてきているが、引き続き手洗い等の感染予防を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・長期休みなどによる家庭での運動への取組や、食事・健康に関する啓発・促進等を通して、児童の体力・健康への保護者の理解と協力を促す。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①〇宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。</p> <p>② 道徳科の授業や特別活動において「個性の伸長」や「集団生活の充実」について考える学習を充実させる</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・児童の達成状況は、89.1%で目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・キャリアパスポートを活用し、自分のよさや成長を実感できるようにする。教職員や保護者がコメントを書くことで価値付けを図る。 ・児童の実態に合わせた道徳の授業を展開する。学級活動では係活動を充実させ、自分の考えを生かしたり、よさを発揮したりできるようにする。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 外国語活動（英語）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>② 外国語活動（英語）に関する校内研修などを実施し、指導力や英語力の向上を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、85.8%で目標値をやや下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・ALTとの打ち合わせ等を通して、指導力や英語力の向上を目指す。 ・外国語活動の校内研修を実施し、指導力や英語力の向上を図る。 ・授業以外でも、ALTとのコミュニケーションの場を工夫する。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業において、教科書や副読本、映像資料等を活用し、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。</p> <p>② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、86.6%で目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業等で宇都宮の良さにふれる機会を引き続き設定していく。 ・5、6年は、総合的な学習の時間等で、さらに「宇都宮学」の学習を充実させたい。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①〇児童が、デジタル機器に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にデジタル機器を活用する。</p> <p>② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させ、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③ 定期的な読み聞かせや読書の時間の設定、すきま読書の習慣化などを通して、児童の読書意欲を喚起する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.4%で、目標値をやや下回った。教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き図書や一人一台端末を積極的に活用していく。 ・学習の成果を保護者に見てもらえる機会をつくる。 ・AI ドリルの家庭での活用を工夫する。</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>② 「ど根性ひまわり」や過去の災害の具体事例などから学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.1%、教職員の肯定的回答は 80.6%で、いずれも目標値を上回った。 ・総合的な学習の時間や社会科等の教科指導を通して、環境への関心が高まるよう指導した。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、総合的な学習の時間や社会科等の教科指導の中で、環境問題や防災について身近なこととして考えられるよう、体験活動や野外授業などの学習を導入していく。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② ユニバーサルデザインを意識した配慮を行うことで、教職員や児童の合理的配慮への意識の向上を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、96.8%で、目標値を上回った。 ・多くの教員で情報共有を図り、支援することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・個別の支援計画を活用し、学校全体で共通理解を深め、適切な指導に当たる。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが絶対に許されない行為であることを繰り返し指導する。</p> <p>② 児童会が主体となった、「いじめゼロ強調月間」の実施等を通して、いじめの起こらない環境づくりに努める。 また「いじめゼロ強調月間」での学校の取組を「児童指導だより」やホームページ等で保護者及び地域住民に周知する。</p> <p>③ いじめの早期発見、早期対応のため、いじめアンケートを年間4回行う。(5・9・12・2月)</p> <p>④ いじめの早期発見や的確な児童理解のため、5、11月に全児童を対象に「教育相談」を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 96.7%で、目標値を上回った。 ・いじめについてのアンケートを、いじめの未然防止と初期対応に有効活用できた。 ・年2回の教育相談を通して、児童の悩みを聞き、複数の教職員で素早く対応することができた。 ・「いじめゼロ強調月間」での学校の取組等を「児童指導だより」等で保護者にも周知することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・「いじめゼロ集会」を今年度に引き続き行い、ポスターや標語を紹介することで意識を高めさせる。 ・SNS 上のいじめを防ぐため、リーフレットを配ることに加え、各家庭でのルール作りを推奨していく。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】</p> <p>② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る情報の共有を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.7%で、目標値を上回った。 ・月に1回情報交換会を行い、指導の方向性を確認しあった。</p> <p>【次年度の方針】 ・各種アンケートやQ-U調査のデータを分析し、その情報を共有することで児童理解を深め、指導に生かしていく。 ・学校での活動の様子を HP 等で保護者や地域住民に積極的に発信していく。</p>

3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童が明るく充実した学校生活を送れるよう、諸活動を月ごとにバランスよく配置する。 ② 特別活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、一人一台端末を活用するなど、縦割り班活動を可能な範囲で実施する。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.7%で、目標値を上回った。 ・個に応じた指導を普段から心がけてきた結果である。 【次年度の方針】 ・児童の実態について、共通理解を図りながら、きめ細かく指導や支援を行い、家庭との連携を深めていく。 ・今後も、必要な児童に日本語指導の機会が与えられるよう、日本語指導講師や日本語ボランティアの活用を進める。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 分かる授業を目指し、授業研究会を行ったり指導法について研修を行ったりする。 ② 個に応じた指導の充実を図るため、児童の実態を把握し、学習内容に応じて少人数指導やTTによる指導等を取り入れ、学習形態を工夫する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 97.0%で、目標値を上回った。 ・本校の研究テーマに基づいた授業研究会を実施することができた。また研究を進めることを通して、児童の学力向上並びに教員の指導力向上につながった。 【次年度の方針】 ・授業研究会や、指導法についての研修を行い、引き続き指導力の向上に努める。
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 教職員が、学校図書館司書、かがやきルーム指導員、ALT、SC等の専門性を有する学校スタッフと、コミュニケーションを図りながら連絡調整を行い、業務の推進に努める。 ② 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら「チーム陽東」として取り組むよう努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.8%で、目標値を上回った。 ・更に今年度は、ICT支援員と協力して業務に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・それぞれの専門性を活かし、「チーム陽東」としての取り組みを充実させる。
4-(2) チーム力の向上	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 教職員の業務の負担軽減に向けて、学校支援ボランティア等の効果的な活用をより一層図る。 ② 行事の精選を含め、業務のスリム化に向けた取組を行っていく。 ③ 教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。	【達成状況】 ・業務内容に偏りがあり、一概には言えないが、教職員の肯定的回答は 83.9%で、目標値をやや下回った。 ・行事は精選され業務のスリム化は図られた。 【次年度の方針】 ・教職員間のコミュニケーションを円滑にしなが、業務の効率化・適正化にさらに努める。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A17○学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① ○学校園のテーマを基に、分科会・教科部会等で重点化を図り、小中一貫教育の推進に協働体制で取り組む。 ② ○学年だよりや学校だより、ホームページ等で、取組の状況を紹介するなど、家庭や地域への広報活動を積極的に行う。 ③ ○地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会等を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 85.0%で、目標値を上回った。 ・今年度から、中学生が来校しての「あいさつ運動」が再開して、連携が以前の状態に戻りつつある。 【次年度の方針】 ・小学校と中学校の教職員間で連携を取りながら、「小・中一貫教育」の推進に取り組む。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17○学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① ○学校園のテーマを基に、分科会・教科部会等で重点化を図り、小中一貫教育の推進に協働体制で取り組む。 ② ○学年だよりや学校だより、ホームページ等で、取組の状況を紹介するなど、家庭や地域への広報活動を積極的に行う。 ③ ○地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会等を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 85.0%で、目標値を上回った。 ・今年度から、中学生が来校しての「あいさつ運動」が再開して、連携が以前の状態に戻りつつある。 【次年度の方針】 ・小学校と中学校の教職員間で連携を取りながら、「小・中一貫教育」の推進に取り組む。

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 早寝早起きや朝食をとること、あいさつや言葉遣いなどをはじめ、学校での指導について保護者に伝えるとともに協力を呼びかけ、家庭と連携を図ることで、望ましい生活の習慣化を図る。</p> <p>② 心の交流を大切にしながら、学習ボランティアやコーディネーターなどと連携を図り、ZOOMやビデオなどのICTも活用するなど、可能な範囲で、地域の人材を活用した教育活動を行う。</p> <p>③ 児童が人とかわりながら、体験的に学ぶ機会を充実させるため、保護者や企業、地域団体等の協力を得た授業を実施する。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 95.2%で、目標値を大きく上回った。 ・感染予防対策を十分に行いながら、地域の人材を活用したり、出前授業を多く行ったりすることができた。 ・学習支援ボランティアの様々な支援により、児童の学習活動の充実や教職員の負担軽減を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・学習のねらいを意識して、より効果的な人材活用を計画していく。 ・学習支援ボランティアとの連携をいっそう密にし、教育活動の充実を図る。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険個所については、迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入の不測の事態の備えを万全にする。</p> <p>③ 熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 94.2%、教職員の肯定的回答は 100%と、いずれも目標値を上回った。 ・安全点検を月に 1 回行い、その都度確認や修繕依頼等を行った。 ・養護教諭の衛生面への環境整備や職員・児童への周知、共通理解の共有などにより、熱中症対策や感染症の予防意識が校内で高まった。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、手洗い・うがいや消毒、換気など、感染症予防に向けた取組を進めていく。 ・月に 1 回の安全点検を行い、改善・修繕を行う。 ・避難訓練については、不測の事態に対する事前の指導を心がけ、繰り返し行っていく。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① ○情報教育主任を中心に、機器の操作を得意とする教職員が積極的にICT機器の活用を推進し、その有効性を教職員間に広めていく。</p> <p>② ○ICT機器の活用について、研修等を計画的に行うなど、学ぶ機会を設けていく。</p> <p>③ ○ICT支援員との連携を図り、授業準備を計画的・組織的に行う。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.8%で、目標値を大きく上回った。 ・ICT支援員を積極的に活用し、デジタル機器の活用を促した。</p> <p>【次年度の方針】 ・ICT支援員と連携を図り、学習のねらいに即したデジタル機器の活用を図る。</p>

	<p>B1 ○児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 登校班長会議や一斉下校での日常的なあいさつ指導とともに、放送や広報、さらに計画・集会委員会による「あいさつ運動」を実施する。生活目標の中にあいさつに関する目標を頻繁に入れて、意識を高める。</p> <p>② ○地域学校園で設定した「あいさつの日」を設け、実施するとともに、保護者への啓発活動を行い、学校・家庭・地域が連携してあいさつへの意識を高めていく。</p> <p>③ 時と場に応じたあいさつについて、具体的な場面を想定させて指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.9%で、目標値をやや上回った。 ・「あいさつ運動」は、やり方を工夫しながら継続できた。 ・地域の方にも進んで挨拶できる児童が増えた。</p> <p>【次年度の方針】 ・生活目標に挨拶に関する目標を定期的に掲げ、誰にでも挨拶する意識を高める。 ・地域の方に進んで挨拶できる児童がさらに増えるよう、登校班の班長がよい手本を示せるように指導をする。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 規範意識や社会生活上のルールを尊重する態度を育てるため、「陽東小の児童の一日」を各教室に掲示し日常的に指導を行う。</p> <p>② 基本的な生活習慣を身につけさせるため、隔週で生活目標を設定し、生活当番を中心に全職員で指導を行う。</p> <p>③ 「陽東小の合い言葉」をもとに、児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】 ・児童生徒の達成状況は、93.7%で目標値を上回った。 ・「陽東ピカイチ賞」を全校朝会で表彰したり、陽東小の3つの合言葉を繰り返し生活目標に設定したりしていることが、規範意識の向上につながっている。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域学校園で、共通して取り組むべき内容を精選し、きまりの周知方法を工夫しながら、規範意識をさらに高めていく。</p>
	<p>B3 児童は、家庭においても家庭学習や読書の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、家庭でも学習や読書に進んで取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の時間や内容、方法等に関するガイドラインを全職員で共有し、指導にあたる。</p> <p>② 学年に応じて自主学習帳を活用したり、家庭学習の記録を行ったりし、教師がそれらに目を通し、認め励まして継続できるようにする。</p> <p>③ 読書の記録を活用したり、各学年の必読図書を家庭に知らせたりする。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答の割合は 79.7%で、目標値を下回った。 ・家庭学習の習慣化を図るために、全職員で指導にあたることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭学習の時間や方法などを保護者にも示し、共通理解を図りながら家庭との連携を図っていく。 ・自主学習帳は、使い方を工夫しながら、今後も継続して使用する。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B4 学校はあいことば「元気なあいさつ」を具現化する活動に取り組んでいる。【やる気】</p> <p>【数値目標】 全体アンケートの「学校はあいことば『元気なあいさつ』を実現するためにあいさつ運動などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 放送・広報委員会等によるあいことば週間（あいさつ運動）を行い、校内挨拶の活性化を図る。</p> <p>② 校外でのあいさつの状況を把握し、学級、登校班長会議、一斉下校などの機会を捉えて指導する。</p> <p>③ 校内での取組を、学校だよりやホームページなどに掲載することにより保護者や地域の方にも周知し、協力を得る。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 90.0%で、目標値を上回った。 ・感染症対策をしながら、できる範囲で「あいさつ運動」を行った。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も引き続き、計画集会委員会を中心とした「あいさつ運動」を行い「元気なあいさつ」の実践を図る。 ・校内での取組を保護者に周知するために学年・学校だよりやホームページなどを活用していく。</p>

<p>B5 学校はあいことば「だれにも親切」を具現化する活動に取り組んでいる。【思いやり】</p> <p>【数値目標】 全体アンケートの「学校は、あいことば『だれにも親切』を実現するために、親切カードの活用や、幼稚園や保育園との交流などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 親切委員会によるあいことば週間「親切の○○」を行い、全校で盛り上げる。</p> <p>② ○各クラスで友達の親切なところやすごいところをカードに書く「ありがとう・すごいねカード」に取り組ませる。</p> <p>③ 幼稚園・保育園との交流、縦割り班活動、地域の方との交流等、児童の主体的な活動を推進する。</p> <p>④ ○道徳授業の充実と人権教室の開催と人権週間における啓発を行う。</p> <p>⑤ 特別支援学級との交流及び共同学習や縦割り班活動を推進する。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 93.5%で目標を上回った。 ・親切委員会による「親切の海や親切の宅急便」の取組が、肯定的回答につながったと考える。 ・「縦割り班活動」は可能な範囲で実施できた。 ・特別支援学級と積極的に交流したことで、お互いに子供たちの心の成長が見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も道徳の授業を充実させると共に、いじめゼロ集会を実施する。 ・今後も引き続き、あいことば週間の取組を充実させていく。 ・体験活動を通し、地域の方との交流を図る。
<p>B6 学校はあいことば「きれいな陽東」を具現化する活動に取り組んでいる。【根気】</p> <p>【数値目標】 全体アンケートの「学校は、あいことば『きれいな陽東』を実現するために、清掃活動やボランティア活動、地球に優しい活動（学校版環境 ISO）などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 環境美化委員会によるあいことば週間（美化運動）を行い、環境・美化の意識を高める。</p> <p>② 全校落ち葉清掃活動、6年生の清掃ボランティア、美化委員会の朝の昇降口清掃等のボランティア活動を推進する。</p> <p>③ グリーンカーテンの設置等、地球環境を守るための活動を行う。</p> <p>④ ふれあい班を中心としたプランターの管理や栽培活動を行う。</p> <p>⑤ 校内での取組を、学校だよりやホームページなどに掲載することにより保護者や地域の方にも周知し、協力を得る。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 92.6%で目標値を上回った。 ・6年生の清掃ボランティアや環境美化委員会の清掃活動、あいことば運動は、あいことばの「きれいな陽東」を実現するための役割を果たした。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も「きれいな陽東」を具現化するために様々な活動を行っていく。

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>【教育活動全体の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価項目26項目中21項目において、肯定的な回答の割合が目標値を上回り、今年度の様々な教育活動が児童の健やかな成長のために効果をあげたと言える。また、児童の肯定的回答の割合は、ほとんどの評価項目で85%以上を示している。「陽東ピカイチ賞」等で児童のよさを認め励ましてきたことや、各学級で児童が互いのよさを認め合う取組を行ってきた成果である。今年度は、学校での様々な活動や地域の催し物がほぼコロナ禍以前と同様の形で開催され、学校や地域での日々の生活に、児童が満足感を感じていることがうかがえる。 <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすい授業」について、児童の肯定的な回答の割合は目標値を大きく上回っており、保護者の肯定的な回答の割合も昨年度を上回り、90%を示している。教職員一人一人が授業改善を図ったことと、保護者が授業の様子を見る機会が増えたことによるものと思われる。今後も、教職員一人一人が指導力をいっそう高め、体験活動を充実させるなど、児童が意欲をもって熱中する授業を展開するよう努めたい。 一方、「家庭学習への取組」については、肯定的回答の割合が児童・保護者のいずれも昨年度より下回った。今後、家庭学習の内容や量、時間等について見直しを図り、保護者との連携のもと、家庭での学習習慣の定着を図りたい。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きまりやマナーを守ること」についての児童の肯定的な回答の割合は、目標値を大きく上回った。「陽東小の一日」や生活目標を教職員で共通理解し、同一步調で児童への指導を行ったり、「あいことば週間」を月1回実施し、学校全体で学校・学級づくりに取り組んだりしたことが、児童の規範意識の向上につながったと考えられる。 ・「思いやりの心」についての児童の肯定的な回答も、目標値を大きく上回った。道徳科において豊かな心の育成を目指す授業展開に努めたことや、親切委員会による「親切の海」の取組、さらには、各学級で互いのよさを認め合う機会を設けてきた結果と言える。 ・「いじめ対策」については、児童の肯定的な回答が目標値を大きく上回った。年4回のアンケート調査と、その都度教育相談等を行ったことで、いじめを未然に防いだり早期に解決できたりした成果と考えられる。ただ、保護者の肯定的な回
--

答の割合は85%未満にとどまっている。今後も、いじめ対策を強化していくとともに、それを保護者にも周知するよう工夫しながら取り組んでいきたい。

・「あいさつ」については、児童の肯定的な回答が目標値を上回り、地域住民の肯定的な回答も昨年度より高い結果となった。「あいさつ運動」をはじめとした取組を行ってきた成果である。ただ、児童の実態を見ると個人差があり、教職員や保護者の肯定的な回答は、85%未満にとどまっている。今後も、引き続き、家庭・地域と連携を図りながら、全校体制で取り組んでいきたい。

【本校の特色】

・「元気なあいさつ」「だれにも親切」「きれいな陽東」3つの項目で、肯定的な回答が全て目標値を上回った。児童一人一人に学校教育目標を受けた「陽東小のあいことば」が浸透し、それを意識した生活がおおむねできていると言える。「あいことば週間」を設けて、子供たちの目に見える形で具体的な取組を行ってきた成果である。また、「陽東ピカイチ賞」の実施をはじめとした、自分の行動を振り返ったり、よい行いを認め合ったりする取組により、児童一人一人の自己肯定感の高まりも感じられる。今後も、「陽東小のあいことば」を柱として教職員が指導し、児童自身も自覚をもって学校生活を送るとともに、保護者や地域の方々の協力を得ながら、児童の健やかな成長を地域全体で見守っていく陽東地域の良さを今後も継続していきたい。

7 学校関係者評価

【あいさつについて】

子供たちは、地域住民に対してよく挨拶をしてくれる。子供たちからの挨拶を促すだけでなく、大人からの声掛けも必要と感じる。子供たちの元気なあいさつが大人の励みになっているので、今後も取組を継続してほしい。

【交通安全指導について】

LRTの開通など、本校学区内の交通事情の変化により、子供たちの登下校の見守り人数の不足を感じる。児童への交通安全に関する指導を十分に行うとともに、「自分の身は自分で守る」という意識の高揚を図ってほしい。

【「陽東小のあいことば」について】

陽東小の児童のみならず、地域住民にも浸透している。今後も「陽東小のあいことば」に合わせた取組を、引き続き行ってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○ 今年度も、生活科・総合的な学習の時間をはじめとして、一人一台端末を積極的に活用するとともに、「リアル」と「デジタル」とのベストミックスを目指し、授業展開の工夫に努めた。また、個に応じた指導ができるよう、習熟度別や少人数での指導、チームティーチングによる指導など学習形態を工夫して、「分かる授業」の展開に努めた。その結果、児童一人一人に学力の定着がなされてきており、各学力調査にもその成果が表れている。

今後さらに、家庭学習の内容等について職員で協議し、それを保護者にも示し、理解と協力を得ながら家庭学習への取組の充実を図る。

○ 「あいさつ運動」をはじめとして、家庭・地域学校園・地域と連携を図った具体的な取組を進めるとともに、道徳の学習においてあいさつの果たす役割の意識づけをしたり、あいさつを実践する場の設定や指導をしたりすることによって、気持ちのよいあいさつができる児童の育成にいっそう努める。

・ 次年度も「いじめ防止」や体罰の根絶に向けて、児童に対して年4回のアンケート調査と、その都度行う教育相談による早期対応及び教職員の研修等を随時実施していく。さらに学校の行っている取組を保護者や地域住民へ周知できるよう、「学校だより」「学年だより」「児童指導だより」等の発行やホームページの細かな更新に努め、情報発信の機会を多くし、その方法・内容の検討・改善を図る。

・ 「陽東小のあいことば」に合わせた取組を次年度も継続して行う。また、それについて家庭や地域にも情報を発信し、陽東地域全体にいっそう広め、学校を核とした地域づくりを目指す。

・ 「陽東ピカイチ賞」の実施や発達段階・児童の実態に合わせた各学級での取組により、自分の言動を定期的に振り返ったり、よい行いを認め合ったりする機会を設け、児童の自己肯定感のいっそうの高まりや望ましい行動への意欲付けを図る。

・ 教職員個々の業務の見直しやICTの活用により、校務の効率化と適正化を図り、働き方の改善をさらに推し進める。